して描いた絵や、雲が浮かぶ爽やかな風景を題材にした絵などがある。部長で2年の古箭凜々菜さん(14)は「みんなの個性が爆発している。作品や題名を見て思いを感じてほしい」と来場を呼びかけている。企画展は入場無料。月曜休館。

## 「気持ち想像して」
## 吃音について講演
### 松本・女鳥羽中で

松本市の女鳥羽中学校で、言いたいことが頭に浮かんでいるのにスムーズに言葉を出せない「吃音」についての講演会があった。同市の言語聴覚士内藤麻子さん(54)と、当事者の皆川裕己さん(35)=筑摩=が登壇。全校生徒約300人に「困っている人の気持ちを想像してほしい」と語りかけた。

自らの経験を基に吃音について話す皆川さん(右)と内藤さん(左)

内藤さんは、吃音の症状には「お、お、おはよう」のように語頭の音を繰り返す「連発」や音を伸ばす「伸発」などがあると紹介。原因はまだ分からず、緊張やストレスによるものではないこと、成人の100人に1人は吃音があるとされることを説明した。

皆川さんは、小学生の時に吃音の悩みを担任教師に打ち明けたが「みんなと同じようにできているから大丈夫」と言われ、相談をやめてしまったと紹介。「吃音の大変さは人それぞれ。困りごとを最後まで聞き、できることを想像してみて」と呼びかけた。

同校教諭で、家族に吃音の当事者がいるという伊藤輝己さん(34)が「みんなが伸び伸びと生活できる社会になってほしい」と企画。3年の有賀早葉さん(15)は「(悩みを打ち明けた人に対して)『そのままで大丈夫』という声がけが良い時も、そうでない時もあるということが心に残った」と話していた。